

延浄寺だより

平成二十八年お盆

七月十三日正午よりお盆合同法要

03・3326・7337
03・3326・2797
FAX 03・3326・5037



東京のお盆は

七月十三日から十六日まで

七月十三日(水)

十二時〜一時

合同法要

皆さんで阿弥陀経を勤めたあと、「お盆とお墓参りについて」住職から話があります。

先祖をお迎えする為の休みなのだが、休みの習慣だけが残る

昔からお盆は十三日に故人やご先祖をお墓に迎えに行き十六日にお送りする。故人やご先祖は三泊四日で里帰りをします。せつかくご先祖が返ってくるので、みんなでお迎えという事で日本中が休みになる。お盆休みはご先祖信仰の宗教行事なのに、なぜ仏教徒以外も休みになるのか考えると不思議です。

昔からのよい習慣ですが、今は親しい故人のお墓参りだけが残っているようです。ご先祖信仰から離れてしまったのでしょうか、だからお盆休みは生きている人も家に帰らず、外国旅行などに出かける。

里帰りが本当だとすると、ご先祖様は鍵の閉まっている家の周りで野宿しているのかもしれない。家にも入れてくれないとなると、ご先祖のほうも帰ってこなくなりそうです。先祖信仰もだんだん薄れ淋しい気がします。



阿弥陀様は光

浄土真宗のお盆

お盆に里帰りはしない

ご先祖は阿弥陀の光の中 いつでも身近で支えてくれる

浄土真宗はお迎えやお送りなどはありません。お墓の中に故人やご先祖はいません。お

墓の中にあるものは、故人の忘れ形見のお骨です。故人やご先祖は阿弥陀様の光の中なので、いつでもどこでも故人やご先祖は身近です。そして私たちを支えてくれています。だから浄土真宗はお盆の時だけ故人やご先祖が帰ることはありません。お盆のお墓参りは故人とご先祖に挨拶に行き、私もご先祖も阿弥陀様の光の中にあることに気がつき墓前で「南無阿弥陀仏」の合掌をすることです。共にそこにいる感じを持つ、それを感じることにはなかなか難しいのですが、それを信じているのが、ご門徒(お檀家)なのです。

もともとご先祖も挨拶をしなければ支えてくれないかもしれません。「挨拶もないのにどうして支えるの?」と言われてしまいます。ですからご来寺の時はまず本堂の阿弥陀様に合掌のご挨拶をする。その後、お墓参りです。

お墓参りは気の通じ合う故人(忘れ形見)とのふれあいですから、お墓の周りには故人の気が満ちています。お墓に向き合うと故人と気の触れ合う雰囲気味わえるでしょう。何も思わなくても「気と気」が触れ合いお参りに来てよかった満足感を持つのです。

葬儀やお墓に迷いが最近葬儀やお墓についての考えがかわってきた

最近、室内墓とか樹木葬の広告が多い、当寺でも同封したように五月の中旬に樹葬等の新聞折り込みを一〇万枚出してみました。反響はいまいちでした。

三年ぐらい前、テレビの番組で首都圏に住む五二パーセントの方はお墓がないと報じていました。ずいぶん高い率です。

この方たちが亡くなったらどうするのだろうか。お檀家の皆様にはあまり関係がありま

せんが、この三年間お墓はあまり売れなくなってきました。お墓への考えが変わってきたみたいです。

そして最近では、葬儀についても、あまり深刻に考えない。葬儀や納骨は残ったほうの問題で、亡くなるご本人が考える必要もない、そんな流れも感じます。情報が多くなりすぎたのでしょうか、六年前には、ご自分の葬儀をどうするかを気にする方が結構おりました。

残された方が困る葬儀は

「おれが死んだら、葬儀も法事も何もなくてもよい」と口癖のように言っていたのですが、「亡くなってしまおうと、そんな勝手なことを言っても残されたほうが、「困ったどうしよう」と悩んでしまうのです。葬儀はせず直葬で済ませたのですがお骨をどうするか困っているのです。との相談を受けました。

従来からの形式で勤める場合は、とくに相談もいりませんが、直葬に近いやり方、一日葬などなされる場合はあらかじめ寺と相談されておくほうがうまく進みます。また葬儀社も延浄寺指定の業者は無理も聞きませんし事前に相談もできます。

直葬後自宅安置が多いのでは

樹木葬でも屋内納骨堂でも結構高い価格です。当寺でも樹木葬はお檀家になれば、お布施は一〇万円として、お困りの方は相談に応じます。もしも困ったので相談に行きたいという声はありませんでした。

直葬をしてそのまま家に置いておく人は増えてきているに違いありません。が相談に行くも面倒だ。それで何年も自宅安置が多くなってきているのではと思います。

お檀家になれば納骨(散骨)は無料
そんな寺があっても良い

高い埋葬代ではなく、当寺のお檀家になれば納骨は無料としたほうがいいのかと**広告の結果思いました。**

無料で納骨(散骨)できる寺があれば、これからの社会に役立つのではないかと思います。ただし当寺の檀家になることは絶対条件です。亡くなったらアミダ様の光の中です。散骨したままで、お参り来ない方は受けられません。ここは大事なところです。



お檀家の紹介であれば無条件で受け入れた
いと思っています。お檀家の皆様も延浄寺に
持ち込めば大丈夫だよ、と口コミで宣伝して
ください。

街の法律相談
お気軽にご相談ください



平原昌一行政書士

檀家総代をされている弁護士の西川茂先生の紹介で平原昌一行政書士さんと知り合いになりました。日本人と結婚をしたフィリピンの方の相続でお願いしていますが、法律が絡んだり手続きが面倒だと、困った困ったと悩

んでしまいます。そのような時、ぜひお願いするとよいと思います。自己紹介をいただきました。気軽ににご相談くださいとのこと

行政書士の平原昌一です。ところで行政書士って皆さん、ご存知ですか。テレビドラマにもなったコミック原作「カバチタレ」の職業として有名になりましたが、平たく言うと、街の法律家です。

仕事内容としては、
①遺言書や遺産分割協議書等の作成を扱う相続業務(私の重点業務)
②外国人の在留資格(ビザ等)を扱う入管業務
③建設業の許可、飲食店や古物商の営業許可等、役所への届出手続きを扱う許可業務、
④株式会社やNPO法人等の設立、定款作成等を扱う法人設立業務
⑤その他、事業報告書、法人の議事録、契約書、内容証明書、離婚協議書等の作成、車庫証明取得等、幅広く皆さんの手助けをしております。こんな事を相談してもいいのかな?と思ったら、いつでも、何でも、気軽に、ご相談下さい。
調布支部所属・平原行政書士事務所
事務所 〒201-0002 東京都狛江市東野川三・二七・二一〇二
電話番号・FAX 〇三・五七六一・四八八〇

網代住職の寄稿記事

日本経済新聞

2016年6月27日朝刊



写真は延浄寺本堂前 2013年1月4日、中央がドゥテルテ大統領

私見卓見

OPINION

ミンダナオ国際大学名誉学長 網代正孝

フィリピンの次期大統領に南部ミンダナオ島のダバオ市長、ロドリゴ・ドゥテルテ氏の就任が決まった。過激な発言で世界のメディアから注目されているが、10年来の友人として言えるのは、彼はパランス感覚を備えた政治家であり偏見を持たずに評価した方がよいということだ。日本の将来のためにも未来志向の良好な関係を構築すべきだ。

比次期大統領と未来志向の関係を

ダバオ市は日本と非常に関わりが深い。戦前、貧しかった日本人はマニラ麻栽培のためダバオに移住し、その数は多い時には2万5千人に上った。働き者で、地域の経済は日本人街を中心に発展し、多くの日系人が生まれた。だが第2次世界大戦で激戦地になったため反日感情が高まり、日系人は山に隠れ住むなど過酷な生活を余儀なくされた。

多くの日系人がダバオに残る一方、日本人は強制送還された。そのうち一人の方が、寺の住職でもある私に戦没者を慰霊したいと持ちかけてきた。1985年にダバオで慰霊祭をすると、多くの2世がいると知り、日系人の支援を始めた。フィリピンは日本とは対照的に人口が増え、貧困や失業問題に直面する。国際的に活躍する人材を育てたいと2002年に立ち上げたのが、日本語教育を中心とするミンダナオ国際大学だった。ドゥテルテ氏との交流が始まったのは04年ごろだ。親日家で、13年の正月に家族旅行で東京に来た。我が家のパーティーでの「日本がダバオを栄えさせてくれた。これからお互いに協力したい」との言葉が印象的だった。大統領に当選後も「日本を重視している」という理由で日本大使に1番初めに面会している。歴史的に関わりが深い日本とフィリピンは、次の100年を見据えた関係を築かなければならない。フィリピンは人口が1億人を超え、若い人材が多い。日本は「壁」をつくるのではなく、どうしたら有能なフィリピン人を受け入れられるかを考えるべきだ。日本では「国家戦略特区法」が成立し、家事手伝いなどをとする外国人の受け入れが始まるうとしているが、動きは遅いと云々を言っている。

うたごえ

アコーディオン・指導 森健介さん

二〇名ぐらいの六〇代のみなさん声を出すことは健康の秘訣、お気軽にお出かけください。

七月二十九日(金) 八月二十五日(木)
十時三十分から十二時まで
七月はこんな歌を 夏は来ぬ 夏の思い出
椰子の実 愛燦燦 愛の讃歌 街の灯り 出
船 花は咲く など

健康体操

指導者 後藤利与子さん

七月八日(金) 八月十九日(金) 十時から十一時三十分
十二〜三名の五〜六〇代女性 タオルを使った柔軟体操。
ダイエットと美容に効果
動きやすい服とペットボトルの飲み物持参